

# 新型コロナ

## 「濃厚接触者」だけを対象にするのではなく 大規模で網羅的なPCR検査を

3日、県に緊急申入れを行う日本共産党甲賀市議員団の（左から）山岡・小西両議員、西山実さん、岡田議員。



診断目的ではなく防疫目的で  
実施してこそ感染拡大抑制できる

新型コロナウイルス感染症拡大は、いのちと暮らしに多大な影響を広がっています。甲賀市内でも専門学校や特養施設で集団感染（クラスター）が発生しています。日本共産党甲賀市議員団は8月3日、知事に対してPCR検査の抜本的拡充を求めて申入れました。また市に対しては、暮らしと経済の支援策を求め積極的提案も行っています。

### 県知事への緊急申入れ概要

- ①感染震源地（エピセンター）を明確にし、その地域の住民、事業所の在勤者を対象に、PCR検査を実施すること。甲賀医療圏域に早急に常設の「PCR検査センター」を開設すること。
- ②地域ごとの感染状況などを情報開示すること。
- ③医療機関、介護施設、福祉施設、保育園・幼稚園、学校など集団感染によるリスクが高い施設に勤務する職員らにPCR検査を行うこと。
- ④検査で明らかになった陽性者を隔離・保護・治療する体制を緊急に作り上げること。
- ⑤陽性確認者の公表・報告は、「住居地の都道府県単位」の区分けをあらため、必要な場合には、都道府県や市町が横断的な情報の共有を行うこと。

### 日本共産党甲賀市議員団 滋賀県知事に緊急申入れ

緊急申し入れの骨子は左の通りです。特に感染拡大を抑止するためには、感染震源地を明確にしたうえで、PCR検査をもっと大規模に網羅的に実施し、無症状でも陽性の場合には、隔離・保護・治療する体制を整えること。甲賀医療保健圏域にもPCR検査センターを早期に開設することを強く求めました（8月5日、甲賀病院内にPCR検査センターが設置されました。山岡議員は「陽性・陰性の診断目的ではなく、無症状の人も含めて感染力のある人を見つけたし、必要な隔離・保護を行う防疫目的であり、検査のあり方を時局に合うよう、医療態勢の拡充と一体で取り組むべき」と指摘しました。

### コロナ禍のもとで「少人数学級」の実現を

コロナ禍のもとでも子どもたちに豊かな学びの場を保障するためには、「少人数学級」が必要です。文科大臣もその必要性を認めています。山岡議員は一般質問で市内小中学校の実態をふまえて「少人数学級」の実現を求めました。これに教育長は「基本的に望ましい」と答弁。現在市内小中学校264学級のうち、1学級あたり31人から35人学級は小42・中36。36人から40人学級は小学校で2校。早急な改善が必要です。

### アレルギー対応給食 保護者らが交流会 山岡議員の提案実現



新設された西部学校給食センターと東部学校給食センターで、今年度からアレルギー対応給食が実施されています。そこで8月28日、アレルギー対応が必要な子どもの保護者の皆さんと市教育委員会との交流会が開かれました。

この交流会は、山岡議員が議会でアレルギー問題を取り上げた時、「なによりも日常的に苦労されている保護者の皆さんの声を聞くため交流する機会を」と提案していたことが実ったものです。この日12名の方が参加され、「我が子がどんな給食を食べているのか。一度試食させてほしい」という声が出され、今後具体化していくことになりました。また、添加分の多い食材や輸入ものではなく、出来るだけ地元の食材、オーガニックな食材を使ってほしい。献立表をもっと見やすくしてほしい。などの要望も出されました。